❖玉勝間〔田舎に雅言の残れること〕〔教科書p.108-p.110〕

玉勝間 ・田舎に雅言の残れること・

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段	第四段
〔①　　〕には、〔②　　〕の言葉が残っていることが多い。	肥後の国の人が言うには、世の中で「見える」「聞こえる」などと言う同類のものを、「見ゆる」「聞こゆる」などと言うそうだ。これは、今では〔③　　〕て聞くことのできない〔④　　〕な言葉遣いだが、用いるのは身分が低い者や木こりだということだ。	どこの国でも、身分の低い者や木こりの言葉は、なまりながらも多く昔の言葉を言い伝えている。一方、人がたくさんいる〔⑤　　〕では、言葉遣いが今風と昔風のどっちつかずで〔⑥　　〕なっていくものらしい。	事実、同じ肥後の国の別の人が言うには、「ひきがえる」のことを、「たんがく」と言うことがあるのは、昔の「たにぐく」が〔⑦　　〕のだろうということだ。

重要語句 次の語句の意味を答えなさい。

(1) ことに

(2) とぶらふ

(3) あまねし

(4) 賤

(5) 山がつ

(6) にぎははし

重要文法 次の傍線部「な」「なる」の文法的説明として適当なものを、それぞれ次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

(1) あまねく聞き集めなば（一〇八・5）

(2) 「見ゆる」「聞こゆる」などぞ言ふなる。（一〇八・8）

(3) 卑しき言ひざまなるを（一〇九・2）

(4) そをよきことと心得たるなめり。（一〇九・2〜3）

ア　断定の助動詞「なり」の連体形。

イ　断定の助動詞「なり」の撥音便が表記されないもの。

ウ　伝聞・推定の助動詞「なり」の連体形。

エ　完了の助動詞「ぬ」の未然形。

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「おのれ年ごろ心をつけて」（一〇八・3）について、

(1) 作者はどのようなことに関心を寄せていたのか。本文から**六字**で抜き出しなさい。

(2) 続く部分に「遠き国人のとぶらひ来たるには、必ずその国の言葉を問ひ聞きもし」とあるが、作者がそうしたのはなぜか説明しなさい。

2 「世に『見える』『聞こえる』などいふ類ひを、『見ゆる』『聞こゆる』などぞ言ふなる。」（一〇八・7〜8）とあるが、

(1) 「『見ゆる』『聞こゆる』」は、どのような言葉遣いか答えなさい。

(2) (1)は、どのような者が用いる言葉遣いか答えなさい。

(3) 次の文は、「『見ゆる』『聞こゆる』」などの言葉遣いが、(2)の者の間で残っている理由を説明したものである。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

A や B を崩して、なまりながらも、多く C を言い伝えているから。

3 「少し言葉をもつくろふほどの者」（一〇八・11）とあるが、どのような場所の人々か。適当なものを次の中から**一つ**選び記号で答えなさい。

ア 人の往来がほとんどない山奥に住む人々。

イ 身分の高い者と共に宮中で過ごす人々。

ウ さまざまな文化の栄える都に生活する人々。

エ 地方のにぎやかな人里に暮らす人々。

4 次の文は、「なかなかに卑しくなんなりもてゆくめる。」（一〇九・8）経緯を説明したものである。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

・人里には A 国の人々も含めてたくさんの人が暮らし、B の人なども、折に触れて C している。

←

・自然と D の言葉を聞き習ううちに、自分も E ようになる。

←

・こざかしい F に移り、雅な昔風が遠くなる。

5 「この類ひのこと」（一〇九・11）とあるが、どのようなことを指しているか。簡潔に答えなさい。